

第30回エイズキャンドルパレード

PLANET(エイズとともに生きる会、People Living With HIV/AIDS Network)

30回目を迎えて



1992年、大阪 HIV 薬害訴訟第二次原告団代表として実名を公表した石田吉明さんと有志が、京都で PLANET を立ち上げました。HIV 薬害訴訟とは、諸外国では認可を止めた輸血製剤である非加熱製剤を、日本政府は承認を続け、非加熱製剤に混入した HIV により、HIV に感染した被害者が、日本政府、製薬企業等を提訴した裁判を指します。提訴から7年後、日本政府は「ない」としていた資料が「見つかり」、歴史的和解に至りました。

PLANET は、HIV・AIDS についての正確な知識の普及と HIV 感染者への差別や偏見をなくすべく、HIV・AIDS に関する啓発活動を実施し「ともに生きる」ことを目的としています。PLANET が開催してきたエイズキャンドルパレードは、本年で30回目を迎えます。世界中でも、ほぼ同時期に開催されます。初の試みとして、フィリピンの病院所属の HIV 専門ソーシャルワーカーの方にインターネットを通してパレードに参加頂きます。

キャンドルの灯には、世界中でエイズにより亡くなった人々への鎮魂と、多様な「生」と「性」を認め合う事への願いを託しています。ぜひ、一緒に歩きませんか？

エイズキャンドルパレードへの思い

当初、エイズキャンドルパレードの提案者である、石田吉明さんが車イスでの参加をされていました。当事者も含め遠方からの参加も多くあり、最高時は300人の参加者がありました。中学生や家族と一緒に小学生も参加していました。当初の運営は大学生が中心で、アウトリーチの活動には YWCA の方々が参加されていました。パレードの終着地点では、蝋燭の灯りに浮かび上がるように石田さんの姿がありました。閉会のスピーチでは、その場で個人的なカムアウトをされることもありました。他府県からの参加者の感想には、店頭に貼られているレッドリボンが印象的で、そのリボンがパレードを盛り上げてくれているとのお話がありました。このレッドリボンは、当初50数軒のものが最高時は90軒を超えています。今年第30回目を迎え、日本での HIV・AIDS の歴史的な流れを振り返りつつ、新たな現状に学び、耳を澄ませていきたいものと思います。

PLANET 代表 小田切 孝子



レッドリボンは、HIV 陽性者への理解と支援の意思表示のシンボルマークとして世界中で使われています。

【後援団体】

京都府
京都市
京都府教育委員会
京都市教育委員会
公益財団法人エイズ予防財団
京都新聞
京都新聞社会福祉事業団
あゆみ助産院
京都医療労働組合連合会
認定 NPO 法人がれいす東京

メモリアルキルトジャパン
日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス
特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権
子どもを守る会
公益財団法人京都 YMCA
公益財団法人京都 YWCA
BASE KOBE
京都“人間と性”教育研究協議会
さぼーと京都
カトリック中央協議会 HIV デスク事務局
エイズフォーラム in 京都

PLANET (HIV とともに生きる会)

Twitter <https://twitter.com/planetkyoto>

